

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・数多い理念の中から開設時職員全員で話し合い、一番大切なこととして作成した。 「当たりまえで家庭的な生活を送ることが出来るように努めます」「入居者様のプライバシーの配慮を行い、安心感の持てる支援を行ないます」	・理念の見直しとして社内研修で講師を招き話し合い検討した。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職場の中での目の付く場所(リビング・休憩室等)に掲示して、常に頭の中に残る様に努めている。 ・職員の会話の中でも職員の方向性として大切である事を話す。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・入居時にホームの職員の方向性として徹底している事を家族に説明し、あちこちに掲示してあることで地域の方々にも理解して頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・常に散歩、買い物、近所の家にお茶のみ、畑仕事と外に出る機会が多い。 ・廻って来た回覧板は入居者様が目を通してから入居者自身で次の家に廻しに行く。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事には、必ず参加する様と努めている。 ・黒川大祭は3日間入居者様全員の見学参加、毎月の地域のお茶の間サロンの参加、市の敬老会への参加、交通安全教室参加	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・ホームで行なっている行事で一緒に楽しんで頂ける様、地域の方々の参加を促している。		・今まで学んで来た事を活かし「認知症を抱える家族の会」で認知症になった人との係わり合い方として話し合いを持つ。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価をすることで、自分を見直し出来ると考え一人一人に評価してもらっている。 ・外部評価を参考にサービスの質の向上にと職員会議、運営委員会で取り上げている。		・評価で指摘された内容では職員全員で取り組み改善している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・評価結果を会議に報告して、常に前進できる様意見を出して頂き、他職種からの推進委員により様々な意見が出され、運営者にも理解して頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・ホームの行事で福祉バスの借用や、敬老会での参加時は色々な面で市職員の入居者に対して気づかいを頂いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員の研修会への参加で権利擁護は目の付く場所に掲示して支援している。 ・成年後見人制度については現在の所、家族の絆が保たれていて必要ないと考える。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・尊敬している方を虐待など考えられない事で、職員全員に徹底し掲示も目の届く場所に張り確認してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・家族に十分説明しており、入居時は入居者本人の納得の上で入居していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・市の相談員が毎月来訪されて入居者と話し合っている。 ・意見箱が置いてあるが利用されたことが無く、職員と入居者との関係を密にして不満を直接いえる関係を築く努力をしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・1回/2ヶ月の広報発行で家族に配布しホームの生活が常に知ってもらえる。 ・「家族の絆」のノートを個々の居室に置き連絡を取り合い面会の回数も多い。</p>	<p>・1回/2ヶ月の広報発行で家族に配布し定着している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・各居室に「家族の絆」のノートを備え自由に書いて頂く工夫や、家族の代表に運営委員となって積極的に意見が出され活かされている</p>	<p>・家族だけの「家族会」が発足されてホーム行事の参加後に家族会を開いて報告書が提出され、運営に繁栄されている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・月1回の職員会議が開かれ、運営者に報告し理解を頂いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・ホーム行事等は休日に合わせ家族の協力を受けられる様な勤務体制をとって対応している。 ・職員の休み希望を取り勤務表の作成をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員移動がある場合は、入居者の不安を最小限にするために当日に報告し理解して頂き、新しい職員とスムーズに溶け込む配慮をする。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>・開設時のマニュアルを見直しホーム独自のマニュアルを職員全員で話し合い作成した。各自一人一人保持して自覚してもらう。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・希望の研修には参加で来る。</p> <p>・必要な研修には管理者から参加を促し参加してもらう。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・交流する機会があり、話があれば参加している。</p> <p>・他グループホームの見学をし自分で確かめて質の向上に活かしている。</p>	<p>・地域のグループホームとの交流会で入居者及び職員と一緒に1日過ごして楽しい時間が持てた。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・休憩室の設備等職員からの要望を受入改善している。</p> <p>・年に何回かの飲み会を行なっている。(納涼会・忘年会等)</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・各個人個人に、仕事内容に対して良いと思えるところを見つけて本人に伝え自信につながる声掛けをしている。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用者本人の意向を最優先して納得の上、喜んで生活できる対応</p> <p>・入居時は臨時プランを作成して利用者の生活の様子を見極める。</p>	<p>・日々の生活の中で、個別対応の時間を大切に話を傾聴している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・見学の段階から、家族とのコミュニケーションを取り、安心して利用出来る説明をしている。</p> <p>・家族の要望も大切に取り入れたケアプランの作成。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・契約時に本人・家族の要望を良く聞き入れ、当たりまえの家庭的な生活を目標にし、今までの生活を崩さない支援の説明し実行。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に当ホームに遊びに来て頂き、ホームを気に入って頂き入居されている。 ・入居時の臨時プランの作成で、見守りの支援から徐々に本人の性格を見極めて、安心出来る居室作りに家族にも協力して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・一緒に住めば皆家族と家族の一員として協力しながら食事準備は入居者に教えて頂き、後片付けまで、洗濯は干してタタミまで職員と一緒にいって、常に感謝の言葉を忘れず掛け合っている。		・最近の入居者も心を開いて好きな事を言い職員と言い合いをしている微笑ましい姿も見られる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の協力の下で、花見、バーベキュー、紅葉狩り等家族一緒にの行事を行っている。 ・毎月2回歌のボランティアとして家族が来訪されている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・入居時は家族との絆も無く孤立していた入居者も、ホームと家族が密になる事で本人とも徐々に壁が薄くなり快く受け入れて下さるようになった。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域とのつながりを大切にして、近所の友達や親戚の家にお茶のみに行く喜びを感じて頂いている。 ・自由な外出、鍵の無いホームを掲げ、近所の方々が野菜や漬物を届けに来て頂いている。		・職員の笑顔の対応、「いつでもお茶飲みに来てください」と一声掛けている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・仕事(畑・食事準備・後片付け等)を通して助け合いながら、自分の出来ることを見つけ出している。		・仕事出来る様になり、自分の仕事として他人に仕事が取られる不安が見えて来ている為、職員が中に立ちフォローしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居されても家族とのつながりが強くホームに訪れる家族もある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常に本人の希望を受入行動に移し、無理な場合は本人と話し合い代替えして頂けるような支援をする。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・居室には本人家族の思いを十分受入仏壇、茶だんす、鏡台等を持ち込み、安心出来る居室作り、また自由に畑仕事に取り組み生きがいとしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・楽しい1日が送られる個々のケアプランに添った生活で、毎日のバイタルチェックに少しの変化も注意深く見守り、職員の共有を図る。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人はもちろん家族、職員全員の意見を出し合い、生活歴や趣味を活かした楽しみの提供・自立支援のケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・入居者と向き合いプラン対応が難しくなった場合でも、どうしたら継続出来るか話し合い考え方の見直しを行い、無理であると判断したら新プランを作成。 ・6ヶ月の定期的のプランの見直しは行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々ケース記録はケアプランに添って記入され変化や気付きに対しても申し送りでも共有している。 ・本人の発した言葉もそのまま残している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・自由に外出、外泊が可能で、家族や知人と一緒に温泉に行くこともある。 ・入居者に畑は全て任せて、相談された時のみ係る。 ・ホームにお茶飲みを訪れて、ホームの良さを知り入居希望された方もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・小学校からの招きで戦争の体験談を話された入居者もあった。 ・救急法、消火訓練では消防士の指導を受ける。(2回/年) ・ボランティアは2回/月以上地域の方々による踊りや歌の来訪。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・現在他のサービスの活用は行っていないが、入居者の希望で「リハビリしたい」に対して、他の事業所をお願いしたが、受け入れていただくことが出来なかった。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進委員になって頂き、入居者に対し良きアドバイスを頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個々のかかりつけ医院は、協力病院以外の場合は、家族に受診をお願いしている。 ・協力病院(精神科)とは常に相談に乗って頂き適切な対応をして頂いているし、精神科以外の受診も紹介状でスムーズに受診出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力病院が精神科であるので、認知症対応に対してのアドバイスをいただく事が出来ている。		・認知が進んで来てホームでの対応が出来なくなった場合の受入も協力病院にスムーズに移棟できた。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・協力病院の看護師に気軽に相談出来教えて頂くことが出来る。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院中は1回/2日病院に面会して本人とお話してホームの様子を伝え元気を出して頂いている。 ・リハビリの様子を見学に行ったりしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・契約時に当ホームには「見取りは行なっていません」と家族に説明をしている。 ・「ホームで対応出来なくなったら」と家族から相談を受けて、特老に申し込んでおられる家族や自宅に受け入れようと考えておられる家族もいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・見取りは当ホームでは行なわない。 ・健康状態をチェックして細かい変化の気付きに注意し、家族との連絡を密にし、異常時は病院に移って頂いている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・協力病院に移棟された場合は、ホームでの状態を紙面上で伝達し、面会を頻回にし新しい場所に慣れて頂く。 ・入居される前にホームの見学を十分行なって頂き、入居者本人が納得されてのご利用を第一に考え、入居時は個別対応を多くもてる支援をする。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>・お彼岸では、入居者がおはぎを作ってくれる。</p> <p>・正月はお供え餅、月見では団子作り。</p> <p>・栗の季節は栗の皮むき栗おこわ、等々</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>・肉の場合は魚で対応。</p> <p>・パン食では、付けるジャム等は自分の好きな物を選んでもらう。</p> <p>・お粥を作って対応。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・時間を決めてのトイレ誘導でなく、生活の中で動きが変わり落ち着きが無くなったの誘導で布パンツで生活している。 ・尿意の無い入居者でも時間を決めてトイレ誘導でリハビリパンツで生活している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・日曜日以外は毎日入浴で来る準備がされ畑仕事から戻り入浴する人、入浴が嫌いでも声掛けの工夫や時間をずらして2回/週は入浴してもらう。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・夜は各自入眠時間は違い眠くなるまで皆さんと一緒にテレビを見て眠くなった方からポチポチ休まれている。		・不眠時の時は、居間の畳コーナーで休養を取って頂く支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・各自自分の役割を持ち、手伝う事の喜びを感じている様子が見られ感謝の言葉を必ず述べる。 ・自室で裁縫、畑仕事、買い物等自由に過ごされている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で小遣い程度はほとんどの入居者が持っている。 ・自分で管理して利用料を郵便局や農協に行き自分で下ろして支払っている方も3人いる。(職員が付き添って)		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・鍵の掛からないホームとして自由に外出出来る。		・日光浴に出かける方、畑仕事や洗濯干しに、車椅子でもエレベーターで自由にと散歩時は職員同伴する。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・季節にあった外出支援している。(花見・紅葉はホームの行事として家族同伴)		・投票(選挙)、白鳥見学、りんご狩り、あやめ祭り見学等々 ・家族と一緒に温泉で一泊旅行をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自由に手紙を書いて自分で出しに行く。 ・携帯電話を持っている入居者もあり自分で家族と会話が自由に出来る。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間の制限も無く、自由に面会出来家族はもちろん、知人や友達も遊びに来てくれる。		・面会も自室で行なう方、リビングや食堂で職員も一緒に談笑し、和やかに行なっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・当たりまえの生活として身体拘束は行っていない。 ・家族からの希望でベット柵を使用しベット下には長座布団を置き転倒防止の配慮をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・常に鍵は掛けていない。(夜勤帯に一人勤務になったら掛ける)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は入居者の一人一人の動きを把握して、目配り気配りし外出時は入居者の状態で職員が必ず同伴して行く。		・ひやり・ハットを活かした早目の対応がされている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・すぐ手の届く場所でも、目の入らない様に保管している。 ・リスクはあるが入居者に合わせた対応をするよう職員で常に話し合っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・毎月の避難訓練、救急法の研修、誤薬に対する配慮は職員全員で取り組んでいる。		・食事前のパタカラ(ブツ) 誤嚥予防 ・PT来訪時に歩行練習の知識の習得 転倒防止 ・無断外出(離居)時のマニュアル作成

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防士による救急救命法の実技指導を全職員受ける(1回/年) ・ホーム独自のマニュアル作成し緊急連絡網での連絡		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・1回/月避難訓練を行なっている(1回/年の消防署立会いの総合訓練を行なっている) ・地震想定、夜間想定と入居者にも協力して頂き行なっている。		・地域の方々の協力が得られる働きをしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・契約時に家族にリスクの事にも触れて説明している。 ・利用者の状態を常に把握して、家族の面会時に話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日々のバイタルチェックを行い早期発見に努めている。異常が見られる場合状態によりすぐ協力病院に連絡を取り指示を仰ぎ、職員間は常に協力し、家族にも連絡を取る。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者全員の薬の管理は職員が行なって服薬一覧表で職員が共有理解して受診時の薬の変更は申し送り共有		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎日の排便チェックを行い確認している。 ・水分量を考えて毎日牛乳を飲用、運動量でも体操や散歩等も声掛けし行なってもらう。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨き実行 ・1回/年歯科医、歯科衛生士による入居者と一緒でホーム内での口腔ケアの実技研修を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事チェックを行い入居者の体調に合った食事の提供(刻み食、お粥、嗜好によって肉・魚) ・1回/年の入居者の健康診断を行なって頂き、貧血予防にレバーを食材に取り入れての貧血対策		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザの予防注射は全員で行なって頂き、手洗いうがいの徹底 ・食事前の手のアルコール消毒 ・こまめの換気 ・1回/月職員全員の検便検査の実施		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・布巾、コップ、まな板のハイター消毒(1回/週) ・自作の野菜で無農薬、加工品は使用せずコロケ、ギョウザ等すべて手作りで行なう。		・出来るだけ必要時に入居者と一緒に地域のお店に買い物に行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・季節の花を常に飾って家庭的な温かさを作っている。 ・家族から頂いた鉢植えや山野草の写真を飾り、親しみ感を出している。 ・建物周囲は裏に畑があり近所の方のアドバイスを頂いたり普通の生活をされている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感が建物の中でも感じられる飾り付けを工夫している。(季節の草花、祭りは浴衣、月見はススキ等) ・すだれを下げて日光をさえぎる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者独自の好きな場所があり、それぞれ自由に過ごされている。(気の合う同士がリビングで、居間の畳コーナーで好きなテレビ観戦、自室で好きな縫い物等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人と家族で話し合い、居室には自由に家具を持ち込み自分らしさが出ている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎日窓を開けて、外気との差を考えてのまめの換気を行っている ・温度調節も入居者が好まない冷房は極力控え扇風機での対応や暖房は20 の設定で衣類での管理も考えている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりの追加等、入居者のレベルにあった取り付けで自立を支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・常に感謝の言葉を掛けて、自分で出来る喜びを感じてもらい、自信につなげる支援をする。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・自由の外出により地域の方々が通る表の花壇に座って日光浴をしている。 ・裏の畑では入居者自身が責任を持って農作業をしている。 ・花壇の水遣りも入居者の楽しみである。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 地域の中に溶け込んだ、気軽に出入りできるホーム
- ・ 当たりまえの生活が見守りの中で可能なホーム
- ・ 利用者の生きがいを引き出し、自由に生活が出来る。